



— 第3回 —

人物紹介

新江ノ島水族館

代表取締役社長

堀 一久さん

地域と連携しながら湘南エリア活性化を目指す！

西に富士山、東に江の島を見渡すことができる、相模湾に面した絶好のロケーションに建つ湘南の娯楽施設「新江ノ島水族館」(通称・えのすい)。設立は70年近く前の1954年7月です。

当時、俳優の石原裕次郎さんらを育てた映画会社「日活」の社長だった現代表・堀一久氏の祖父にあたる堀久作氏が、湘南海岸をドライブ中に「江の島の素晴らしい景観にふさわしい施設を作ろう」と着想し、1952年に事業会社を設立。そのわずか2年後に「江の島水族館」を開業し、日本の近代的水族館第1号と称されました。

海と海の生き物が大好きだった久作氏の熱い想いが今に引き継がれています。

「私は大学卒業後、信託銀行に13年間勤め、36歳の時に後を継ぎました。当時は、施設の老朽化が進んでいて低迷期にありました」。2004年4月、相模湾と太平洋、そこに暮らす「生物」をテーマに「新江ノ島水族館」としてリニューアルオープンしたところ、開館5か月弱で100万人、2017年には、累計2000万人を達成しました。

以来、人気スポットとして定着しましたが、「新型コロナウイルス感染の影響を受け、昨年、2020年3月から5月まで休館を余儀なくされ、その後も安全運営のため入場人数の制限もあり入館者数は4割減と厳しい状況が続きました」と堀社長。

「臨時休館中に多くの方から『えのすいを応援したい』という温かいメッセージを頂戴し、クラウドファンディング『#えのすいファンディング』を立ち上げたところ、1200万円ものご支援をいただき、生き物の餌代や水族館運営費に活用させていただきました。たくさんのえのすいファンに助けていただきました。本当にありがたいことです」

また、小田急江ノ島線「片瀬江ノ島駅」構内のクラゲ水槽の設置や水族館周辺のイルミネーションなど、藤沢市や江ノ島電鉄との連携により、新たなスポットとして注目を浴び、観光客の少なかった冬場の江の島エリアも、人出が増えています。

「これからもお客様が喜ぶイベントやプログラムを提供し続けたい。勇気と挑戦(チャレンジ)という弊社の行動指針に沿って、藤沢市や周辺地域と連携しながら、相模湾に面した湘南エリア全体の活性化を目指したいと思います」



笑顔になれる魚や動物たちを見に来てください!!

▲海の中にあるような気持ちになる「相模湾大水槽」。マイワシの大群が圧巻!



新江ノ島水族館

神奈川県藤沢市片瀬海岸2-19-1

TEL: 0466-29-9960 FAX: 0466-29-9965

<https://www.enosui.com/>



▲野球に熱中していた学生時代。

▶小田急江ノ島線「片瀬江ノ島駅」に設置されたクラゲ水槽。癒しのクラゲがお出迎え。



▶イルミネーションが目を引く冬の水族館。



▶信託銀行時代。